

## ＜メディアウオッチ＞「終わった話」にしてはいけない民族差別の猪瀬発言

上出 義樹

東京都の猪瀬直樹知事が2020年夏季五輪招致をめぐる米ニューヨーク・タイムズ紙上でライバルのトルコ（イスタンブール）を、「（イスラム諸国は）互いにけんかばかりしている」「（トルコ人が）長生きしたければ、日本のような文化をつくるべきだ」などと侮蔑した問題は、主要新聞などでこの大型連休期間にどう展開されたのだろうか。

### 舌禍事件は「一件落着」とばかり助け舟を出す全国紙の社説

例えば、読売の5月5日付社説は「招致委としては、今回の舌禍事件を乗り越え（中略）、支持を拡大していくことが大切」と、知事発言を既に過去の問題として済ませている。読売ばかりでなく、朝日やNHKも早々と舌禍報道を切り上げている。

### 定例会見で逃げ腰の知事に厳しい質問浴びせる都庁詰め記者たち

ところが、5月2日に都庁で開かれた猪瀬知事の定例会見では各社の記者たちが執拗に食い下がり、「もう終わった話」と舌禍問題から逃げを決め込む知事に対し、「辞職」の意志を確かめる質問も出た。実際の新聞紙面では、辛辣な知事批判が目立つネットの書き込みなどとは異なり、猪瀬知事の辞任にまで踏み込んだ記事は見かけないが、現場の記者は、もっと厳しく知事発言をとらえていることがわかる。

### トルコを訪れた安倍首相は経済外交のどさくさに猪瀬発言をフォロー

一方、安倍晋三首相は5月3日、訪問先のトルコで会談したエルドアン首相に、猪瀬知事の発言を謝罪。互いに五輪招致のエールを交わした。想定されたセレモニーではあるが、安倍首相は、「国益」も損ないかねない問題を、経済外交のどさくさに紛れて「一件落着」させたわけだ。

### 知事辞任に値する差別発言問題の幕を引くマスコミ各社

各国の事情や思惑から外交上は一応、「落着」の形になっているが、今回の猪瀬知事のイスラム侮蔑は、単なる「失言」では済まされない。5月1日の本欄でも触れた通り、五輪招致の問題を超え、知事辞任に値する重大な民族差別発言である。

安倍首相と大手メディアの蜜月ぶりをみてもわかるように権力者には甘いマスコミだが、知事としての政治的な資質にも関わる今回の差別発言を、そう簡単に免罪してはいけない。

（かみで・よしき）北海道新聞で東京支社政治経済部、シンガポール特派員、編集委員などを担当。現在フリーランス記者。上智大大学院博士後期課程（新聞学専攻）在学中。